

項目	課題	施策の方向性の検討に向けた論点
<p>A 基本的事項</p>	<p>病床機能の分化及び連携にどのように取組むか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回復期病床が大きく不足 ・慢性期病床の不足 ・高度急性期、急性期の過剰 ・病床機能の医療連携体制の構築 	<p>回復期、慢性期病床の充足を図る場合、どのような手法で充実を図るべきか (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回復期・慢性期への転換に係る技術的・財政的支援 ・入院医療の効率化など病床稼働率向上に向けた支援 等 <p>高度急性期、急性期の機能分化をどのような手法で図るべきか (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度急性期・急性期の医療機関の特色強化に向けた支援 等 <p>病床機能の分化・連携に向けどのような医療従事者を育成すべきか (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアや回復期リハ等に従事する医師、看護師及びリハ関連職種(理学療法士、作業療法士等) 等 <p>どのような手法で の医療従事者を育成すべきか (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成のための研修等 等 <p>病床機能の連携体制をどのような手法で図るべきか (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用も含めた地域の医療・介護の連携体制構築 等
<p>B 入院基本料</p>	<p>自己完結率やレセプト出現比の地域差をどのように考えるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7:1及び10:1(高度急性期・急性期相当) ・回復期リハ等(回復期相当) ・療養病棟(慢性期相当) 	<p>医療機能別の自己完結率は向上させるべきか (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期は、疾患別に自己完結率の向上を考える ・回復期、慢性期は可能な限り構想区域内での対応を目指す 等 <p>どのような手法で医療提供体制を構築すべきか (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期は、構想区域間を越えた連携体制構築に向けた支援 ・回復期、慢性期は、自区域での対応に向けた体制整備支援 等

項目	課題	施策の方向性の検討に向けた論点
C 疾患別の地域特性	<p>< がん > 自己完結率やレセプト出現比の地域差をどのように考えるか がん診療連携やりハビリのレセプト出現比が低い</p> <p>< 急性心筋梗塞 > 自己完結率やレセプト出現比の地域差をどのように考えるか</p> <p>< 脳卒中 > 自己完結率やレセプト出現比に地域差をどのように考えるか 脳卒中連携パスの利用の出現比が低い</p> <p>< 肺炎、骨折 > 将来、患者数が増加</p>	<p>自己完結率は向上させるべきか</p> <p>< がん > (例) ・急がない疾患であり、手術は構想区域を越えた提供体制を目指すべき ・化学療法等(外来)の治療体制は、可能な限り自己完結すべき 等</p> <p>< 急性心筋梗塞、脳卒中 > ・急ぐ疾患であり、手術、リハビリも含め可能な限り自己完結を目指すべき 等</p> <p>どのような手法で医療提供体制を構築すべきか</p> <p>< がん > (例) ・がん手術の構想区域間を越えた連携体制構築に向けた支援 等 ・がん治療の自区域での対応に向けた体制整備に向けた支援 等</p> <p>< 急性心筋梗塞・脳卒中 > ・自区域での対応に向けた体制整備に向けた支援 等</p> <p>レセプト出現比が低い項目に対してどのような手法で対応すべきか (例) ・必要に応じた特定疾患の医療機関の拠点化の支援 ・クリティカルパス等の活用による疾患別の医療連携体制の構築 等</p> <p>肺炎、骨折の医療提供体制をどうすべきか</p>
D 救急	<p>自己完結率やレセプト出現比の地域差をどのように考えるか</p> <p>医療連携体制に関するレセプト出現比が低い</p> <p>県全体での搬送件数は将来的な増加が見込まれるが、搬送件数の増減には地域差がある</p>	<p>自己完結率は向上させるべきか</p> <p>レセプト出現比が低い医療連携体制の向上や搬送時間短縮に向けてどのような手法で対応すべきか (例) ・消防と救急医療機関の連携体制構築 等</p>

項目	課題	施策の方向性の検討に向けた論点
E 在宅医療等	<p>約7割増加する在宅医療等への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅医療・介護を支える体制構築 ・ 在宅人材不足 <p>リハビリテーション、他機関との連携、がん連携パスの出現比が低い</p>	<p>在宅医療・介護の体制構築に向けてどのような支援を行うべきか</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅医療・介護を担う医療機関等の24時間365日対応の充実 ・ 日常の療養生活や急変時の対応のための、後方支援病院と在宅医療機関等との連携構築 ・ 在宅歯科医療の口腔ケア等の推進、医歯薬・介護連携の推進 等 <p>在宅医療人材や医療機関等の充実をどのように図るべきか</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅医療人材等の育成のための各種研修 ・ 在宅医療を担う医療機関等への支援 等 <p>在宅医療の普及啓発をどのように図るべきか</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かかりつけ医の周知、患者・家族への適切な情報提供への支援 等
F 医療従事者等	<p>全国と比べて医療従事者数が過小</p> <p>地域偏在がある</p> <p>今後、入院医療と在宅医療等のニーズが増加</p>	<p>今後どのような確保・養成を育成すべきか</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の勤務医師、総合診療医 ・ 看護職員 ・ 病床機能の分化・転換に伴い必要となる医療従事者(再掲) ・ 在宅医療人材の育成(再掲) 等 <p>どのような手法で確保・養成を図るべきか</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療支援センターの活用や修学資金の貸付け支援 ・ 医療勤務環境改善支援センターによる勤務環境改善の支援 ・ 民間の看護師養成施設への支援 等 <p>医療従事者の地域偏在をどのように解消すべきか</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療支援センターによる支援 等
G その他	<p>上記のほかに課題はあるか</p>	<p>上記のほかに重点的に取り組むべき施策はあるか</p>